

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 多変数間に潜む高次相互作用の探索と分解

2. 個人研究者名

杉山 磨人（情報・システム研究機構国立情報学研究所 准教授）

3. 事後評価結果

センサ技術や IoT の発達により、複数変数の多変量データを取得する機会が大幅に増加した。多変数間の高次相互作用の探索と分解を実現する解析技術を確立し、これまでは明らかにされていない、データの背後に潜む関連性の発見を目指した。

難関国際会議での多数の発表のみならず、複数の研究者とも共同研究を行っており、さきがけ期間中の人的ネットワーク形成に成功している。さらに、ブラインド信号源分離、機械学習実装の信頼性担保など、基礎研究で得た成果の応用も進んでいると評価できる。

成果の応用に向けた萌芽的成果が得られており、今後はどこで、どのように、社会を変革できる技術として活用できるのかをイメージしながら研究を進めることを期待する。本領域の分野融合の経験を活かして、ユースケースの探索に取り組んでほしい。